

205) 居眠り

その昔小生がまだ若かりし頃、彼女と安酒場に酒をのみに行きました。誘ったのは小生の方だったのでありますが、この彼女は酒が強いこと、ビールを少々、ワインを少々飲んだところで、小生は例のように居眠りをこいてしまったのであります。ふと気がつくと、口の中がなんとも具合が悪いのであります。これはイカン。きっと悪いものを食べてしまったか、酒を飲み過ぎて口の中がおかしくなってしまったのだと思って、口の中に手を入れてみると、なんと口の中には紙屑が入っているではありませんか、しかもその紙には、「いくら経っても起きないから、先に帰る。」と書いてあるではないですか。どうやら小生は大口を開けて居眠りをしていたのでありまして、その後、彼女の冷たくなったこと。それにしても小生は以来、居眠りをするときには、必ず下を向いて、物を入れられないようにしているのであります。